

岩手県職労

月2回刊=1647号
2024年4月30日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所
盛岡市内丸九番1号
岩手県庁内
岩手県職員労働組合
印刷所
盛岡市上田二丁目17-4
有限会社 ジョー印刷企画
一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

新採用職員114人が着任

県職労は新しい仲間を歓迎します!!

職場での声掛けが「鍵」

新年度を迎え、各所属に新採用職員が着任し、1か月が経つ。新採用加入促進の取り組みとして、各支部での先輩組合員からの声掛け、組合の役割や活動について集約した動画及びパンフレットを用いた説明、新採用職員研修後の本部主催の組合ガイダンス等により、分会・支部・本部一体で新採用職員の加入促進に全力を挙げている。4月上旬に開催した久慈、盛岡、県庁、宮古の4支部の取組例を紹介する。



▲盛岡支部の歓迎昼食会の様子



▲県庁支部の歓迎昼食会の様子

4月2日、久慈支部では久慈合庁に配属された新採用職員を対象に、新採用歓迎昼食会を開催した。組合紹介動画を鑑賞した後、北崎支部長から組合について説明があり、続いて先輩組合員から組合の必要性やお得意に利用できるじちろう共済の魅力、東北労働金庫のローンについて、また、仕事で行き詰まった時に相談のつてもらうことでもきたなどの自身の体験談を交えて組合の良さを伝えた。4月3日、盛岡支部では盛岡合庁に配属された総務事務センター、経営企画部、保健福祉環境部、土木部の新採用職員を対象に、歓迎昼食会を開催した。遠藤盛

2018年からの継続要求の成果

児童相談所の宿日直改善

福祉総合相談センター児童女性部、一関・宮古児童相談所で、これまで夜間及び休日の対応は勤務時間として取り扱われない「宿日直勤務」とされてきた。本来「宿日直勤務」とは、定時的巡視、緊急の文書又は電話の收受、非常事態に備えるの待機等を目的とし、常態としてほとんど労働を必要のない勤務を対象とするのだが、実態として一時保護所入所中の児童指導及び児童虐待通告等対応業務を深夜にわたり行っており、宿日直職員にとっ

ている。この期間に守れるのは県職労だけであり、早めに参加するよう伝えた。自己紹介で先輩組合員から「組合活動で横のつながりを作れて、異動先で知っている人がいるということは結構なメリット」、「職場だけだと一生会わなかった人とも組合でいろんな職場から集まって交流できるといことは組合の大きな力、強み・意義であり、組合は大切な組織」など自身が組合に入っていて良かったことなどを話していただき、参加者から加入届が提出された。4月9日、宮古支部では

県職連合第36回 定期大会 県職労第132回

◆日時 2024年6月1日(土) 10時
◆場所 「盛岡市勤労福祉会館」大ホール

宮古児童相談所に配属された新採用職員を対象に、歓迎昼食会を開催した。終始女子会のような雰囲気です。昼食会を進め、今年度、宮古へ異動してきた先輩組合員や2年目の先輩組合員から自分が加入したきっかけや加入してからの活動について前向きな話をしていたので、参加者から加入届が提出された。

現業評・新体制スタート

新議長に菅原 薫さん

県職労現業評議会議2024年度役員選挙は3月21日に投票が行われ立候補者全員が信任された。4月から菅原新議長を先頭に新体制で活動をスタートした。新役員は次のとおり。



菅原 薫 議長



中軽米 徳典 事務局次長



小田 倫義 事務局次長



上澤 賢輝 副議長



古館 聡 副議長

2024年度版 組合員必携

県職労の組合員必携は、県職労の規約や私たちの権利、各種制度について記載されているハンドブックです。2024年度版は5月上旬頃更新の予定となっています。更新されましたら、県職労ホームページに掲載いたします。
※県職労ホームページは、組合員のみが閲覧できます。IDとパスワードが必要となりますので、書記局へお問い合わせください。

4月も終わりを迎えている。皆さんの職場は働きやすい職場だろうか▼仕事をやる上で「どの職場も働きやすい環境であることが理想だが、皆さんの職場環境はどうだろうか？私が考える働きやすい職場は、①ワークライフバランスがしっかりとれる、②良好な職場の人間関係、③サービス残業なし、である▼しかし、公務職の実態は近年、若年層の早期退職やメンタル不調による病気休暇等が増加傾向であることをご存じだろうか▼職場でのコミュニケーションが上手く回らず、仕事でミスやモチベーションを下げられる人がおらず、メンタルで病む、サービス残業や休日出勤などの長時間労働を強いられるなどが例として挙げられる▼要因は様々であるが、「労働組合」がその課題解決に向けて職場の実態調査や意見交換会等を実施し課題解決に向けて取組み、働きやすい職場環境の実現に向けて活動をしている。そのため組合員一人ひとりの「声」に耳を傾けて現場の「声」を聴いている▼働きやすい職場環境の改善に向けて各職場からも引き続き「声」を挙げていただきたい。

